

2025年1月9日

アジア研究図書館

U-PARLイベント開催報告(一色 大悟)	1
2024年度図書館総合展 出展報告(板橋 暁子)	4
蔵書紹介	7
アースターネ・ゴドゥス・ラザヴィー図書館・博物館・文書館機構からの寄贈資料について (河原 弥生)	
アジア研究図書館利用案内	
次号の予定	
編集後記	

編集・発行: 東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門
(RASARL)

〒113-0033

東京都文京区本郷7-3-1

東京大学附属図書館 アジア研究図書館担当

asialib@lib.u-tokyo.ac.jp

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/asia>

U-PARL イベント開催報告

一色 大悟

(附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門 (U-PARL) 特任准教授)

令和 6 年度前半における事業の準備

令和 6 年度 4 月から開始した第 3 期 U-PARL は、過去 2 期までの成果を基盤として、アジア研究図書館がもつアジア研究のハブ機能を一層強化するため、新たな事業を展開している。その事業は、文理融合・東西融合の研究、デジタル資源の作成、アジア研究図書館運営支援、社会還元の 4 つからなる。その詳細は、本ニューズレター第 16 号に掲載された蓑輪頭量 U-PARL 部門長の記事を参照されたい。

第 3 期 U-PARL では、令和 6 年度前半中に特任スタッフが議論を重ね、本年度テーマを「Society5.0 における心のゆたかさ」に設定したうえで、イベント企画を準備し、10 月以降、順次実施している。

この記事では、第 3 期 U-PARL が 10 月から 11 月に開催した、サブジェクト・ライブラリアン・トーク「ハワイ大学マノア校日本研究司書・中村充孝氏を囲んで」、文理融合・東西融合ワークショップ「瞑想／観想を東西からみる」、ワークショップ「近代植民地期の地図と写真」について報告する。

U-PARL サブジェクト・ライブラリアン・トーク「ハワイ大学マノア校日本研究司書・中村充孝氏を囲んで」

今期の U-PARL では、アジア研究図書館において研究者をリエゾンする機能を強化するため、RASARL とともに海外の図書館と連携を深めることを、事業の一部に加え

ている。この方針のもと、ハワイ大学マノワ校図書館に新たに日本研究専門司書として着任された中村充孝氏が調査等で来日されている機会をとらえ、「サブジェクト・ライブラリアン・トーク」と題する談話会を、10 月 1 日アジア研究図書館レクチャールームにて開催した。開催当日には本学の教員と学生、一般をあわせ、学内外から 7 名が参加した。

中村充孝氏は、早稲田大学政治経済学部卒業後、銀行勤務を経て渡米され、映画やテレビ等の撮影業界に入り、NHK ワールド『アジアンボイス』でディレクターを務められたのち、図書館情報学修士号を取得して研究専門司書となられた人物である。コロンビア大学及びワシントン大学セントルイスの東アジア図書館勤務を経て、令和 5 年 6 月より現職に着任された。

談話会の冒頭に行われた中村充孝氏の講演は、リファレンスデスクにいただけでサブジェクト・ライブラリアンの仕事は完結しない、と明言することから始まった。中村氏は、資料と研究者あるいはアカデミア外とのつなぎ役となり、資料の最適な保存と利活用を積極的に検討する役割を担うというサブジェクト・ライブラリアン像を示したのち、その背景にある前任校や現職における業務経験を語られた。講演の話題は、ハワイ大学に所蔵される高沢コレクションや薩摩コレクションといった現在整理中の資料の整理や、そのための AI 等のデジタ

ル技術の活用、他校から資料調査に来る学生のための奨学金制度、さらに大学ごとのサブジェクト・ライブラリアンの地位と大学図書館の制度にも及んだ。

中村充孝氏が示したのは、いわば「攻めの姿勢」とも呼べるような、サブジェクト・ライブラリアンが資料構築から研究、さらには社会教育へと主体的かつ積極的に参与しているアメリカの現状であった。中村氏を招いたサブジェクト・ライブラリアン・トークは、海外の研究図書館との連携を強化する一助となったのみならず、現在の U-PARL が目指す、アジア研究図書館のハブ機能を強化することで、市民社会との学知の共創を行うという事業の流れについて大きな示唆を与えたように思われる。また、この「サブジェクト・ライブラリアン・トーク」に出席した佐川英治アジア研究図書館長のほか、関心のある図書館職員、大学院生も、中村氏との交流から感銘を受け、サブジェクト・ライブラリアンのイメージを更新することとなった。そのため後日、佐川館長の発案により、中村氏承諾のもとで記録用動画が図書館内に共有された。

U-PARL 文理融合・東西融合ワークショップ「瞑想／観想を東西からみる」

U-PARL が令和 6 年度テーマ「Society5.0 における心のゆたかさ」を検討するうえで、視野に収める必要があるのが、現代におけるウェルビーイングの概念と、それをもたらすものとして語られるマインドフルネス瞑想である。このマインドフルネス瞑想について、U-PARL では蓑輪顕量部門長が、仏教学の立場から、また高橋美保兼務教員も臨床心理学の立場から研究を進めていた。のみならず、東京大学とその周囲には、マインドフルネスに関心を寄せる研究者、学生、実践家が多数点在していた。そこで U-PARL では、アジア研究図書館をハブとし

て東大を中心として蓄積されてきた点と点をつなぎ、第 1 回文理融合・東西融合ワークショップを行った。

本ワークショップは、10 月 6 日、駒場キャンパス 21Komcee の一室と、三昧堂を会場として行われた。開催当日には学生 8 名、本学各部局の教員 7 名、一般 4 名が参加した。

まず本学教育学研究科元教員であり現在スタンフォード大学特任教授であるスティーブン・マーフィー重松氏に「Heartfulness has a way of living and dying」の題目のもと基調講演を賜った。重松教授の講演が、西洋の観点からの瞑想指導に焦点を合わせていたのに対し、蓑輪部門長が「日本の仏教マインドフルネスにおける指導実践」と題して、アジアにおける仏教史の観点から瞑想指導のあり方に付いて話題提供した。さらに本学教育学研究科 OB でありアメリカでの坐禅指導で知られる藤田一照氏が登壇され、「道元の普勧する坐禅」試論」と題し、現在一般に行われている瞑想実践とは位相を異にする坐禅を研究の視野に含める可能性について論じられた。

このワークショップは、東洋と西洋、伝統と現代、仏教学と心理学という複数の観点から瞑想をとらえるものであるが、さらに理論と実践をあわせたことにも特色があった。スティーブン・マーフィー重松教授の講演は、先生が行っているハートフルネス瞑想の実践をともなった形式で行われたのに加え、駒場キャンパス内の坐禅堂である三昧堂において参加者は、蓑輪部門長・藤田一照氏のそれぞれの指導のもと瞑想の体験を行った。

理論的な講演と瞑想の体験を通して、最後の全体討論では瞑想研究のこれからについて議論が深められた。蓑輪部門長から、今回のワークショップで新たに生まれた、東京大学内外を結ぶネットワークをこのま

まに終わらせず、今後につなげてゆく道を模索することも提案された。

U-PARL ワークショップ「近代植民地期の地図と写真」

第 3 期の U-PARL は一層研究資源のデジタル化に注力するべく、「みんなで育てるアーカイブ」事業を立ち上げた。これは、従来のデジタルアーカイブは、完成品として公開することを前提としていたため様々なボトルネックでスタックしがちだったことを踏まえ、多様なステークホルダーが、作り手と利用者といった垣根を越えてコミュニティをつくり、そのなかでデジタルアーカイブを段階的に「育成」するものである。

この「みんなで育てるアーカイブ」の一環として、ワークショップ「近代植民地期の地図と写真」が澁谷秋 U-PARL 特任研究員の企画のもと 11 月 29 日、総合図書館大会議室にて開催された。これは、U-PARL が 2014 年に購入してから公開に向けた権利問題等が検討され続けてきた、「朝鮮半島地図」と「田中武雄氏旧蔵写真等資料」という 2 コレクションについて、公開と研究の可能性を検討するものである。会場には、本学の研究者・大学院生のほか、一般からは田中武雄氏のご遺族も出席された。

このワークショップでは、U-PARL が資料購入した当時、韓国・朝鮮担当の特任研究員だった川西裕也新潟大学助教と、日本の朝鮮植民地支配と警察の研究を専門とされる松田利彦国際日本文化研究センター教授が登壇した。川西助教は「植民地期朝鮮半島地図について」、松田教授は「田中武雄氏旧蔵写真等資料について」と題した講演で、それぞれの資料について解説した。それを受けて、参加者は二人一組になって「田中武雄氏旧蔵写真等資料」(複写)を閲覧し、相談しながら資料から読み取れる情報を付箋にメモして貼り、さらに他の参加者がつ

けたメモに賛同する場合は丸シールをその付箋に貼った。最後の討論では、メモがついた資料を中心に、参加者が議論し、今後の研究と公開の可能性を探った。

今後へむけて

第 3 期の U-PARL は、関わってくださった多くの教職員の方々のご協力と、U-PARL 内の兼務教員・特任教員・特任研究員・職員の尽力によって、好調なスタートをきることができた。今後は、この記事で報告したイベントの成果と、さらに令和 7 年 1 月 26 日に控えているシンポジウム「ボトルネックを乗り越える新時代のアーカイブ(むすび・ひらくアジア 6)」の成果を、3 月 16 日に予定されている「“明日を心ゆたかに過ごすには？”アジアの視点からみる Society5.0: 第一回東京大学 U-PARL 文理融合・東西融合フォーラム(むすび・ひらくアジア 7)」で集大成しなければならない。

年度末の U-PARL の成果とりまとめにむけて特に書き添えたいのは、本部門の第 3 期における 4 事業は、個々別々に独立したものではなく、それぞれが緊密な相互関係のもとにあることである。附属図書館の研究部門である U-PARL が行う文理融合・東西融合研究は、デジタル化された過去の知の上になされるものでなければならず、またそれは社会と結びつく点で成果の社会還元としての側面も持つ。したがってアジア研究図書館のハブ機能強化に向けた U-PARL のアプローチは、研究者と資料、あるいは研究者同士だけでなく、過去と未来、アカデミアの内外を双方向的に結びつけるものでなければならない。今回報告した 3 イベントはいずれも、横断性と双方向性の点で、今期の U-PARL がいかなるものを目指しているかをよく示しているように思われる。

2024 年度図書館総合展 出展報告

板橋 暁子
(RASARL 助教)

1. はじめに

図書館総合展は 2024 年度に 26 回目を迎えた。公共・大学・学校・専門図書館を問わず、あらゆる館種の図書館の運営に関わる人々が一堂に会し、それぞれの機関の活動を広報し、情報を交換し、同業界人として交流を深める場と位置づけられている。

2020 年 10 月の当館開館および RASARL の発足以来、2021 年度（第 23 回図書館総合展_ONLINE_Plus）はアジア研究図書館全体として、2022 年度（第 24 回図書館総合展_ONLINE_Plus）は U-PARL 単体にてオンライン出展をおこない、2023 年度に初めて RASARL として会場出展をおこなった。2024 年度は RASARL による 2 回目の会場出展となった（出展者名義は「東京大学アジア研究図書館」）。例年と同じく、ポスターセッション形式での参加である。

2. 開催方式について

例年、図書館総合展の会場開催期間は 2 日間であったが、2024 年度図書館総合展では 3 日間へと拡大された。また、例年の会場開催時期である秋に先立ち、6 月にも会場開催の日程が設けられた。時系列としては、2024 年 6 月 29 日（土）に横浜市中心図書館にて「6 月大集会」という形で幕開けし、6 月 29 日（土）～7 月 7 日（日）に第 1 期のオンライン展示、11 月 5 日（火）・6 日（水）・7 日（木）にパシフィコ横浜にて会場展示、11 月 16 日（土）～24 日（日）に

第 2 期のオンライン展示が実施された。当館はこのうち 11 月の会場展示に参加をおこなった（6 月大集会では、図書館に関連する新作映画や横浜市立図書館のサービス紹介等がおこなわれた）。



総合展本体の主たる会場はパシフィコ横浜 HALL C とアネックスホールであり、ポスターセッション出展者は HALL C のうち右奥の区画に配置された。HALL C にはほかに各種規模の企業ブースのほか、アカデミックブース、スピーカーズコーナー、特定テーマのブース（「災害と図書館 2024」

「あなたも使える専門図書館 2024」) など
が設けられた。

HALL C は常設展示用の会場であるが、
会期中は他に 9 つの会場 (第 1～第 6 はア
ネックスホール、第 7～第 9 はホール棟コ
ンコース沿い) にて講演会・ディスカッ
ション・ワークショップなど様々なフォー
ラムが開催され、活況を呈した。

主催者発表によれば、2024 年度の総入場
者数は 12,786 名、当館含む会場ポスターセ
ッション出展者は 58 件、会場ブース出展者
は 72 件、1day 出展者は 9 件、会場フォー
ラムのイベント開催件数は 58 件であった。

会場での開催期間に先立ち、図書館総合
展ウェブサイト上に参加形式ごと、出展者
ごとの広報ページが設けられ、ポスターセ
ッション出展者の場合は「2024 年度 ポス
ター」ページ¹にリンクを貼る形で各自の
施設やイベントに関してアピールが可能に
なった。アジア研究図書館の広報ページは
脚注に示したとおりである²。本学からの
出展者としては、ほかに人文社会系研究科
開講の「文化資源としての書物」履修生が
オンラインのみのポスターセッションに参
加した。



3. アジア研究図書館の出展内容

今回のポスターセッション出展者のうち
会場参加者に対しては、幅 160cm×高さ
240cm のブースが提供され、そのうちポス
ターを掲示するパネルは幅 99cm×高さ
183cm であった。また、パネルの邪魔にな
らない範囲で出展者が使用できるようにパ
イプ椅子 1 脚が貸与された。

規定上、ポスターセッション出展者は、
会場開催初日の前日である 11 月 4 日 (月)
15 時～18 時に搬入・設営作業をおこなうこ
とが許可されていたが、当館は 5 日 (火)
午前 8 時～10 時の「出展者準備時間」に、
初日担当者の河崎助教によりポスターが搬
入され、設営作業が完了した。なお中日 (6
日) は無人展示、最終日 (7 日) は河原准教
授と報告者が会場に立ち会い、展示終了時
間の 18 時にほぼ合わせて搬出・撤去作業を
完了した。

今回の当館ブースは昨年と同じく A0 サ
イズ (幅約 84cm×高さ約 119cm) のポス
ターを掲示し、その左側のスペースにてアジ
ア研究図書館パンフレットおよびニューズ
レターの近刊数号、2023 年度刊行の図録
「識字教育資料からアジアの社会をみる」、
そして「令和 5 年度東京大学アジア研究図
書館活動報告書」を配布した。ニューズレ
ターは冊子状に印刷し、オンラインで閲覧
可能な旨を QR コードとともに提示したが、
以外にも持ち帰られた分が多く、読み物と
しての需要を感じた。ポスター掲示用のパ
ネル部分はエンボス加工のため、主催側か
ら配布された画鋏でポスターを掲示し、そ
の横のスペースは樹脂加工であったため持
参したテープで配布物入りの封筒を貼付す
る形になった。

今回展示したポスターの主題は、アジア

¹ <https://www.libraryfair.jp/poster/2024>

² <https://www.libraryfair.jp/poster/2024/169>

研究図書館とイランのアースターネ・ゴドゥス・ラザヴィー図書館・博物館・文書館機構（以下、レザー廟図書館）との協定発足およびそれを記念するイベントの広報であった。ポスターのうち文字部分は 2 か所に分かれ、冒頭の 1 か所では両館が覚書を交わした経緯、およびイスラーム世界におけるレザー廟図書館の重要性に関する概要が述べられている。もう 1 か所では 12 月 20 日～1 月末開催予定の記念展示および 1 月 10 日開催予定の記念セミナーに関する情報を掲示した。文字以外のスペースには、協力覚書調印式の写真のほか、レザー廟の壮麗な建築物や広場、歴史ある図書館・博物館施設に関連する写真を掲載した。これらの写真はレザー廟からご提供いただいたもののほか、2024 年 3 月の調印に際してマシュハド（レザー廟の所在地）に渡航したアジア研究図書館関係者・協力者が撮影した写真を使用した。

4. 会場イベント等

ポスターセッション以外の活動として、アジア研究図書館は「あなたも使える専門図書館 2024」（主催：図書館総合展運営委員会）および「図書館総合展 2024 ポスター&アカデミッククイズラリー」（主催：Jcross ((株)ブレインテック)) というイベントに参加した。

前者は一般公開されている専門図書館であれば参加することができ、事前に自館概要データおよび紙のパンフレット 100 部程度を主催者に提出することで、前述のように HALL C の一角に設けられたブースにおいて集合展示をおこなってもらえるという企画である（オンライン展示もあり）。日本全国の多様な専門図書館の概要パネル・紹介パンフレットが一堂に会する場という点で意義深いものだが、個性あふれる専門図書館のなかで当館は埋没するのではないか

とも予想していた。だが実際には、他館と同様に当館のパンフレットも残部わずかとなり、各種の専門図書館に関心を持つ層の多さを感じられた。

後者はクイズの回答者ではなく出題者としての参加であり、事前に主催者へ出題内容と正答（ポスターセッション内容に関連するもの）を提出した上で、クイズラリー出題者であることを示すハガキ大のパネルをポスターセッションのパネルに掲示することで、クイズラリー回答者への目印とするものである。回答者には正答率に応じてノベルティの配布があるが、出展者は出題者としてこれに参加することで、出展内容によく目を通してもらうことのできる仕組みになっている。

5. おわりに

報告者にとっては 2 度目の図書館総合展参加であった。昨年度に比べ要領をふまえているつもりで臨んだが、会場の企画や展示物そして販売物からはやはり予想外の驚きを得られた。また、U-PARL 兼務教員でもある大向一輝准教授（本学人文社会系研究科）も登壇された「図書館・博物館の Open 化を推し進めるために」（主催：次世代型文化施設フォーラム／OpenGLAM JAPAN）をはじめ、会期中に開催された各種フォーラムは今年度とくに充実しており、主催者は国公立の機関から営利企業まで様々であったが、図書館の今後の使命に真摯に向かい合うものが多かったように思われる。

来年度の会場開催は 2025 年 10 月 22 日・23 日・24 日の 3 日間が予定されている。図書館業界の新しい一面に触れるような出会いを期待するとともに、当館としても新鮮で有用な情報を発信してゆきたい。

蔵書紹介

アースターネ・ゴドゥス・ラザヴィー図書館・ 博物館・文書館機構からの寄贈資料について

河原 弥生
(RASARL 准教授)

はじめに

アジア研究図書館は、昨年度、初めての海外の図書館との研究交流事業として、イスラーム圏最大級の図書館であるイラン・イスラーム共和国のアースターネ・ゴドゥス・ラザヴィー図書館・博物館・文書館機構（以下、レザー廟図書館）と協力覚書を取り交わした。2024 年 3 月にマシュハドで行われた調印式には佐川英治アジア研究図書館長（RASARL／人文社会系研究科）及び森本一夫教授（RASARL／東洋文化研究所）が出席し¹、その際にレザー廟図書館から 12 冊の資料の寄贈を受けた。本稿では、研究利用の便のためその概要を紹介したい。

資料はすべてシーア派信仰やレザー廟、レザー廟が位置するホラーサーン地方の歴史に関するものであり、アジア研究図書館の書架分類では「6 西アジア」に第一分類される。本リストは、分類表の順に従い、日本語、西洋諸語、アラビア語、ペルシア語の順に言語ごとにまとめ、それぞれの内部では主題分類順に並べた。アラビア文字は本誌の編集の都合上、翻字で示した。

なお、ここに紹介する全資料が、令和 6 年度東京大学アジア研究図書館展示「文化も薫る聖なる敷居ーレザー廟図書館協力覚書調印記念展示」（2024 年 12 月 20 日～2025 年 1 月 31 日）において展示中である。

資料一覧

日本語（6 J）

(1) 光の聖域 = Harim noor / 非イラン人巡礼者事務所著；ゲイターンチャー・サイデ訳；清水直美編。-- [マシュハド]：ゴドス文化会館，2015。-- (BD09583311)。-- 6 J:060
別タイトル: Ḥarīm-i nūr.

日本語によるレザー廟の紹介。レザー廟の由来、拡張の歴史のほか、代表的な建築物が写真とともに紹介される。



『光の聖域』表紙

(2) 聖クルアーン：日本語訳 / 澤田達一訳。-- [ゴム]：啓示翻訳文化研究所，2013。-- (BB19611237)。-- 6 J:167 a

別タイトル: al-Qur'ān al-karīm : wa-ma'ānīhi bi-al-lughah al-Yābānīyah ; Qur'ān-i karīm : hamrāh bā tarjumah bah zabān-i Zhāpunī.

¹ 協力覚書調印に関する詳細は、森本一夫「アースターネ・ゴドゥス・ラザヴィー 図書館・博物館・文書館機構との協力覚書調印について」『アジア研究図書館（アジア研究図書館ニューズレター）』16 号、東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門、2024 年 7 月、1-5 頁を参照されたい。

シーア派の澤田達一氏によるクルアーンの日本語訳。各ページに、アラビア語のクルアーンの原文を取り囲むように対応する日本語訳が配置されている。

(3) イマーム・リダー(彼にサラーム)からの 40 のハディース / 澤田達一 [ほか] 翻訳. - 東京 : Almustafa International University , 2018.12. -- (BD09569026). -- 6 J:167 c

別タイトル: Chihil Ḥadīth az Imām Riḏā ‘alayhi al-salām : tarjumah bah zabān-i Zhāpunī : jumlat-i kārburdī-i gawharīn barā-yi imrūz-i mā az 1200 sāl pīsh

ハディースとは一般に預言者ムハンマドの言行を記録したものであるが、十二イマーム・シーア派では 12 人のイマームの言葉もハディースに包括される。これらの人々の言行の内容や伝承の伝達過程、典拠が重視され、それらを調べる学問がハディース学として発達してきた。本書は、イマーム・レザー (タイトルにある「リダー」はレザーのアラビア語読み) の 40 の言葉の日本語訳を所収している。一つ一つは短い、道徳的に生きるための明快な助言が選ばれている。



『イマーム・リダー(彼にサラーム)からの 40 のハディース』表紙

西洋諸語 (6 W)

(4) Introducing the museums of Astan Quds Razavi / editor (Persian), Muhammad Qazizadeh ; translators, Khalil Javan, Toktam Alidoust & Sakineh Taqizadeh ; English editors, Salman Shalchian Tabrizi & Muhammad Reza Rastegar Muqaddam. -- 2nd edition. -- Mashhad : General Public Relations Office of Astan Quds Razavi , 2014. -- (BD09587990). - 6 W:060

Other Title(s): The museums of Astan Quds Razavi.

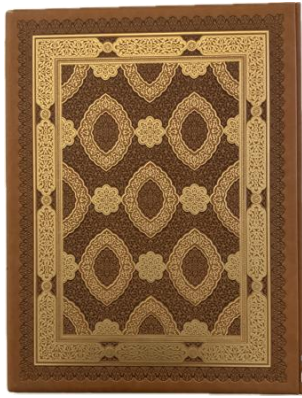
『レザー廟博物館』 レザー廟博物館の歴史、所蔵品の由来や種類が解説される。博物館には、クルアーン写本、ペルシア絨毯、貨幣、陶器、武器など、多種多様な美術品や芸術品が所蔵されていることが窺える。

アラビア語 (6 XA)

(5) [Muntakhab-i suvar-i Qurān-i karīm] / bi-khaṭṭ-i Ibrāhīm Sultān. -- Mashhad : Mu'assasah-i Chāp va Intishārāt-i Āstān-i Quds-i Razavī , [2013]. -- (BD06140777). -- 6 XA:167 a

『聖クルアーンのスーラの精選』 ティムール朝第 3 代君主シャールフの息子で、ファールス地方を治めていたイブラーヒーム・スルターン(1394-1435 年)の手になる、クルアーンの 12 のスーラ (章) を所収する所謂「ムスハフ」のレプリカ。「ムスハフ」とは、一般に書物や本を意味する語であるが、クルアーンの写しを指す用語でもある。イブラーヒーム・スルターンは書道家として名を馳せており、5 冊のクルアーンの写しを作成したことが知られる。そのうち 1 冊はトルコのトプカプ宮殿図書館に、別の 1 冊はニューヨークのメトロポリタン美術館に所蔵されている。現在レザー図書館に保管されている本書の原本は、彼のマシュハド参拝中に作成されたものと伝えられ、

多くの部分が金で書かれ、華麗に装飾された作品であり、16 葉のみ残存する。高さ 65cm の大型本。



『聖クルアーンのスーラの精選』表紙



『聖クルアーンのスーラの精選』より

ペルシア語 (6 XP)

(6) Shāhkār'hā-yi hunarī dar Āstān-i Quds-i Razavī : katībah'hā-yi ṣaḥn-i 'Atīq / Maḥdī Ṣaḥrā'gard, Valī Allāh Kāvūsī, Sayyid 'Alī Ḥusayniyān'nasab. -- Mashhad : Āstān-i Quds-i Razavī, Mu'assasah-i Āfarīnīsh'hā-yi Hunarī, 2016. -- (BD09580583). -- 6 XP:200 c

Other Title(s): Masterpieces of Āstān-e Quds-e Razavī : inscriptions of Atiq courtyard ; Masterpieces of Āstān-e Quds-e Razavī : inscriptions of Enghelab (Atiq) courtyard.

『レザー廟の芸術の傑作：アティーク広場の碑文』 現在は革命広場と呼ばれているアティーク広場の建築物の歴史と、それぞれの壁面を飾るタイルの碑文の解説。

(7) Katībah'hā-yi Taymūrī dar Khurāsān / Sayyid Muḥsin Ḥusaynī. -- jild 1. -- Mashhad : Bunyād-i pazhūhish'hā-yi islāmī, 1390 [2011]. -- (BC18388976). -- 6 XP:200 c

Other Title(s): Timurid inscriptions in Khurāsān ; Angular (bannā'i) scripts of Gawhar Shārd Mosque.

『ホラーサーンにおけるティムール朝の碑文』第1巻 建築物の壁や墓石等の表面を飾る碑文が解説された資料集。レザー廟のほかイラン各地の碑文、アフガニスタンやウズベキスタンの碑文を所収する。

(8) Katībah'hā-yi Taymūrī dar Khurāsān / Sayyid Muḥsin Ḥusaynī. -- jild 2. -- Mashhad : Bunyād-i pazhūhish'hā-yi islāmī, 1390 [2011]. -- (BC1838904X). -- 6 XP:200 c

Other Title(s): Timurid inscriptions in Khurāsān.

『ホラーサーンにおけるティムール朝の碑文』第2巻 建築物の壁や墓石等の表面を飾る碑文が解説された資料集。レザー廟のほか、マシュハド近郊の歴史的建造物の碑文を所収する。

(9) Guzīdah-'i asnād-i ḥuẓūr-i zanān dar Āstān-i Quds-i Razavī : az Ṣafavīyah tā Pahlavī-i Avval / Ilāhah Maḥbūb Farīmānī, Zahrā Ṭalā'ī. -- Mashhad : Sāzmān-i kitābkhānah'hā, mūzah'hā va markaz-i asnād-i Āstān-i Quds-i Razavī, 1400 [2021 or 2022]. -- (BD03869129). -- 6 XP:360

Other Title(s): A selection of documents of participation of women in the Astan-e Qods Razavī : from the Safavid to the Pahlavi period.

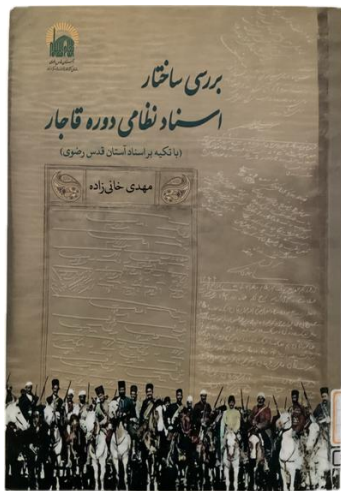
『レザー廟における女性の存在に関する文書集：サファヴィー朝からパフラヴィー朝初期まで』 レザー廟における女性について、所蔵される文書資料をもとに明らかにする研究。廟やモスクのほか、病院や孤児

院で勤務または奉仕してきた女性たちに関する資料を分析する。

(10) Bar'rasī-i sākhtār-i asnād-i nizāmī-i dawrah-i Qājār : bā takyah bar asnād-i Āstān-i Quds-i Raḡavī / Mahdī Khānī' zādah. – Mashhad : Sāzmān-i kitābkhānah'hā, mūzah'hā va markaz-i asnād-i Āstān-i Quds-i Raḡavī , 1402 [2023 or 2024]. -- (BD05273312). -- 6 XP:390

Other Title(s): Study of military documents of Qajar period (with reliance on AQR documents).

『カージャール時代の軍事文書の構造研究：レザー廟所蔵文書に基づいて』 カージャール朝期の軍事関係諸文書の構造について、所蔵文書に基いて明らかにする研究。軍の構造や内部組織、財源や収支などに関する詳細な資料を所収する。



『カージャール時代の軍事文書の構造研究：レザー廟所蔵文書に基づいて』表紙

(11) Tārīkh-i pānšad sālah-'i khidmāt-i pizishkī dar Āstān-i Quds-i Raḡavī : az Dār al-Shifā tā Bīmāristān-i Fawq-i Takhaṣṣuṣī-i Raḡavī / Ghulāmriḡā Āzarī Khākistar, Sālim Ḥusayn'zādah Sūrshjānī. -- Mashhad : Sāzmān-i kitābkhānah'hā, mūzah'hā va markaz-i asnād-

i Āstān-i Quds-i Raḡavī , 1401 [2022 or 2023]. -- (BD03041939). -- 6 XP:490

『レザー廟における医療サービスの 500 年の歴史：診療所からラザヴィー専門病院まで』 サファヴィー朝の診療所の時代から現代の専門病院に発展するまでのレザー廟における医療サービスの歴史について、所蔵される文書資料をもとに明らかにする研究。付属する薬局、各地に所在する支部、孤児院など関連施設が詳述される。

(12) Asnādī az naqqāshān-i abnīyah-'i Āstān-i Quds-i Raḡavī : Šafavīyah tā Qājārīyah / Muṣṭafā La'l Shāṭirī, Ilāhah Maḡbūb Farīmānī. – Mashhad : Sāzmān-i kitābkhānah'hā, mūzah'hā va markaz-i asnād-i Āstān-i Quds-i Raḡavī , 1402 [2023 or 2024] -- (BD05258002). -- 6 XP:720

『レザー廟建築の建築画家たちに関する諸文書：サファヴィー朝からカージャール朝期』 サファヴィー朝からカージャール朝期にかけてレザー廟の建築において活躍した著名な画家たちについて、所蔵される文書資料をもとに明らかにする研究。サファヴィー朝期の 8 人、アフシャール朝期の 3 人、カージャール朝期の 12 人の画家が取り上げられている。

アジア研究図書館利用案内

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/asia/user-guide>

場 所	総合図書館4階
開館日／閉館日	総合図書館の開館日・閉館日に準じます。
開館日	以下閉館日を除くすべての日
閉館日	年末年始(12月28日～1月3日) 定例休館日(おおむね毎月第4木曜日) 夏季の一斉休業日(2日間) 試験等大学行事のための閉館日 その他臨時閉館日

開館時間

	曜日等	通常期	8月・3月
	月～金曜日	9:00～22:30	9:00～21:00
	土・日・祝日	9:00～19:00	9:00～17:00

学外の方もご利用いただけます。詳しくはホームページをご覧ください。

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/general/user-guide/outside/gakugai>

次号の予定

第19号は令和7年4月7日に発行予定です。

ニューズレターへの情報提供、投稿や、記事へのご要望があれば、東京大学アジア研究図書館([asialib\[at\]lib.u-tokyo.ac.jp](mailto:asialib[at]lib.u-tokyo.ac.jp))までお知らせ下さい。

編集後記

第18号をお届けします。

本号では、アジア研究図書館の二つの研究部門であるU-PARLとRASARLそれぞれの活動報告を掲載し、弊館のアウトリーチ活動の一端を紹介しました。また、昨年3月に協力覚書を取り交わした海外図書館からの寄贈資料の概要を示しました。皆様の積極的なご利用を期待しています。(J)